



# 自然の解説者

春季号

2010年4月19日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙

[春季号] 第27号

事務局：〒370-0006 高崎市問屋町 1-4-1  
センチュリー高崎問屋町 605

編集：総務・企画部会(大石 紘一様方)

## 平成22年度を迎えて

NPO 法人ぐんま緑のインタープリター協会理事長 亀井 健一

またたく間に理事長として1期2年間が過ぎ、2期目を迎えることになりました。振り返ってみて、意余って力足りずであったり、「はず」と「つもり」の思い込みで迷惑をかけたのではないかと、内心忸怩たるものがあります。前の任期を反省し、会員の皆様の声を糧に、心新たに新しい任期を全うできればと思います。

22年度の基本的な考え方としては、活動の継続性に留意しながら、次のような点に力を注ぐべきであると考えております。まずは我々自身の資質向上を図り、よって協会事業を一層充実し魅力ある内容にすること、協会の社会的な存在感を高め会員の活動場所を広げること、協会事業への会員の参加促進を図ること、関係団体との連携を深めることなどが重要であると考えます。また、いうまでもないことですが、次の各点も重視してゆきたいと考えております。

わが国は、地球温暖化防止を目指して、2020年までに1990年比で温室効果ガスの25%削減という大きな目標を掲げております。自ずと温暖化防止効果の大きい森林の果たす役割が期待されます。また、本年の秋には人と自然との共生を目指した生物多様性条約第10回締約国会議(COP15)が名古屋市で開催されます。ますます森林や自然が、重要な意味を持ってきました。我々も微力ながら、その目標に向かって全面的に協力してゆかなければなりません。

折しも、本年10月3日には、全国育樹祭が21世紀の森で開催されます。前日の2日は全国緑の少年団活動発表大会が前橋市などで開かれます。当協会の目的から、当然のことながら運営など種々の面でサポーターとして全面的に協力したいと考えております。

ところで、協会名にあるインタープリターの意味から単純に考えると、当協会は自然解説だけを志す団体のように思えますが、協会の活動はそれだけではありません。その活動は子どもから大人まで、ソフトとハードの両面にわたって、体験型、学習型と、非常に多岐にわたっています。活動の多様さは、会員や県民のニーズの多様さを反映したものと実感しております。会としては、その多様さをくみ取り、充実するように努力する必要があると考えております。

結びに、当協会の発展と会員の皆様のご活躍を祈念し、新年度を迎えてのご挨拶とさせていただきます。

## 平成22年度 第8回 ぐんま緑のインタープリター協会 通常総会

平成22年4月4日(日)前橋市総合福祉会館において、協会員70名が参加して盛大に開催されました。亀井理事長より地球温暖化や生物多様性など国際的会議の目的について理解を深め、全面的に協力したい、また折しも本県で開催される全国育樹祭、全国緑の少年団活動発表大会についてサポーターとして貢献したいと決意の挨拶がありました。

来賓としてご出席いただいた新任の県緑化推進課高井光夫次長及び前橋市教育委員会清水弘巳指導部長の2名よりご祝辞をいただきました。

平成21年度事業・決算及び平成22年度事業・予算案について原案どおり承認決定の後、役員改選を行い新役員が決定しました。

### <新役員>

理事長	亀井 健一	理事(受託・協力担当)	吉田 幸一
副理事長	櫻井 政司	理事(緑のインプリの森担当)	桐生 正作
理事(総務担当)・事務局長	櫻井 昭寛	監事	内田 昭彦
		監事	小崎 昭一
理事(企画担当)	宇多川 紘		



## <協会活動のトピック>

### 平成 21 年度 自然の解説者養成講座修了

当協会が主催して3年目になる平成21年度「自然の解説者養成講座」は21年4月26日(日)に始まり、13講座を終えて22年1月17日(日)に無事終了となりました。

受講者24名のうち、19名の方が規定の10講座以上を受講し、当協会の理事長より修了証書を交付されました。また16名の方が新しい仲間として当協会に入会されました。なお、修了されなかった5名の方には22年度に開催される「自然の解説者養成講座」で補講し修了されまことを希望します。



藤岡市ふじふれあい館における修了式で亀井理事長から修了証書を受ける受講者(平成22年1月17日)

平成21年度「自然の解説者養成講座」修了者(敬称略)

青木紀代子	石村英二	大島純子	大谷正明	大谷春代	栗原香織	小嶋邦子
小林孝雄	佐藤泰一郎	住谷収	竹之内昭子	常盤好子	中野良枝	引田孝男
松村政啓	松村春江	丸山峰樹	矢吹紀子	吉田卓一		

### 「ぐんま山の日」の制定について

平成20年3月に山や森に関連する38の団体が協議して、毎年10月を「ぐんま山と森の月間」と定め、多くの恵みを与えてくれる森林に感謝し、県民みんなで守り育てる意識を高めるための活動を展開してきました。

本年10月3日に本県で開催される第34回全国育樹祭を契機に去る2月には、さらに一層の取り組みを進めるための宣言文を採択するとともに、10月の第1日曜日を「ぐんま山の日」と決めました。

今夏にかけて「ぐんま山の日」制定記念と全国育樹祭を盛り上げるためのイベントの募集がまもなく始まります。当協会としても積極的に参加して盛り上げていきたいと思ひます。

### <活動報告>

#### 特定外来生物法と群馬の現状研修 2月22日(日) 当協会主催(会員資質向上研修)

「前橋プラザ元気21」5階55号学習室にて群馬県環境森林部自然環境課の坂庭浩之氏、中澤麻紀氏を講師に迎え、協会員32名が講習を受けました。

生物の多様性を保全するために、特定の外来生物による被害を防止する法律が制定され、外来生物被害予防3原則の1.入れない 2.捨てない、3.拡げないを守って行くことが求められています。

群馬県内でもアライグマ、カミツキガメ、セアカゴケグモ、カワヒバリガイ、コクチバスなどの繁殖が確認されているとのことです。私たちが生物多様性を守るため注意を払ってゆく必要があると思ひます。



#### 尾瀬の自然と尾瀬学校 4月4日(日) 当協会主催(会員資質向上研修)

前橋市総合福祉会館適応訓練室において、尾瀬保護財団企画主任 安類智仁氏を講師に迎え協会員53名が尾瀬の自然と保護について学びました。尾瀬を紹介するビデオで予備知識を得て、安類講師の明快な説明で尾瀬の保護の歴史から現状の問題点まで幅広く自然保護の理解を深めることができました。

また、市民参加の尾瀬の保護運動も活発に行われていることがわかり、尾瀬自然ガイド制度の紹介もあったので、尾瀬を訪ねた折には立ち寄ってみたいと感じました。



## 緑の窓



## 尾瀬の自然と尾瀬学校

尾瀬保護財団 企画課主任 安類智仁

(平成22年4月4日(日) 前橋市総合福祉会館で行われた研修会から)

### 尾瀬の自然

尾瀬は2007年8月に、尾瀬ヶ原、尾瀬沼、至仏山、燧ヶ岳に加え会津駒ヶ岳、帝釈山・田代山を編入し37,200haの地域からなる29番目の国立公園として指定されました。高層湿原と、標高2000m級の山岳地帯、中央分水嶺、多雪地帯のため豊富で特異な植物相があります。

尾瀬は、学術的価値が高く国の「特別天然記念物」に指定され、現状を変更してはいけないこととなっています。尾瀬はまた湿原生態系としての価値が評価され、2005年11月にラムサール条約湿地として登録されました。

### 尾瀬の環境

尾瀬は明治時代信仰の山として開けました。高層にある豊富な水量をめくり数次に渡る開発計画がありましたが、多くの人々の努力により尾瀬の自然が守られてきました。利用者が増加するにつれて山小屋や木道が整備され平成8年には年間60万人もの利用者が訪れるようになりました。

### 尾瀬の保護

利用者の増加によりゴミ処理、登山道の崩壊拡大などの問題が生じましたが、ゴミ持ち帰り運動やマイカー規制により自然保護を進めています。

「みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ」ため、市民参加による尾瀬保護をめざし、全国から300名以上が尾瀬ボランティアとして登録し活動しています。尾瀬ボランティアは清掃活動や植生復元、登山指導を通して自然保護を訴えています。

### 尾瀬学校

尾瀬の自然保護を優れた「環境教育の場」と考え、群馬の子供達が一度は尾瀬を訪れ、ガイドを伴った少人数のグループによる質の高い自然体験を通して、身近な自然を守ることの大切さ、ひいては地球の環境を守ることの大切さを学んでいます。平成21年度には108校8,100人が参加しています。



### 群馬の照葉樹林

当協会理事長 亀井 健一



桂昌寺の照葉樹林(安中市下秋間)

前号では「雑木林は群落遷移の実験場」のテーマで、放置雑木林に常緑広葉樹(照葉樹)が侵入していることについて触れました。関連するので、本県の照葉樹林を紹介しておきます。

#### 本県平野部の原植生は照葉樹林

本県の平野部や丘陵地は温帯のうちの暖温帯に属し、原植生はシラカシやヤブツバキなどからなる照葉樹林であったと考え

られます。人が住むようになって、住宅地や耕作地になり、一部は雑木林や人工林に変わっています。しかし、河川の岸边、丘陵の崖ぎわ、寺社の境内など、人の干渉が少ないところには照葉樹林が見られます。原植生の名残か群落遷移の結果と考えてよいでしょう。その構成種を調べてみると、上記のほかにアラカシ、シロダモ、アオキ、キツタ、若干の落葉樹が生えています(場所により構成種は異なる)。

#### 今も見られる照葉樹林

国道254号線沿いの道の駅下仁田の近くに「不通(とおらず)渓谷入り口」の標識があります。標識に従って15分ほど歩くと鍋川にかかる不通橋に着きます。この付近の渓谷を不通渓谷と呼んでいます。ここから上流の石淵橋付近にかけて、照葉樹林が断続して見られます。鮎川の緑壱橋付近にも、岸边に照葉樹林が見られます。

玉村町上福島の高崎・伊勢崎線沿いに、わかりにくいが高橋川が流れています。この川の岸边に照葉樹が茂っています。隣接する動物病院の敷地の隣に「群馬の自然百選 上福島の照葉樹林」の説明板が設置されています。

前橋から渋川に向かう国道17号線沿いに橘山があり、国道沿いは崖になっています。この崖の一部に、広い面積ではないが、濃緑の照葉樹が茂っているのがわかります(広桃発電所正門前の国道をはさんで反対側の崖)。

人の干渉が少ない寺社の境内には、照葉樹林が維持されている場合があります。富岡市一ノ宮の貫前神社、安中市下秋間の桂昌寺などがよい例です。

## &lt;ヘビの話&gt;

## はるさきのヘビ

## 第2回

財団法人 日本蛇族学術研究所長・医学博士 鳥羽通久

3月、4月の冬眠明けのヘビは、日向ぼっこをするだけで、まだ活発に活動をするわけではない。春が深まってくると、マムシを除いて、恋の季節になる。

雄は、雌を探して動き回るが、この時雌の体表にある一連の炭化水素が、同種の雌を見分ける目印になる。雄は雌が地表に残した匂いを探し出し、追跡することで雌を見つける。このために、異種間での交配は、普通起こらない。

雌を見つけると、雄は後方から近づき、主に雌の背中に触れることで、雌を刺激する。ヘビとトカゲの雄は、尾の付け根に左右1対の交尾器を持っていて、雌が総排出孔を開くと、どちらか片方を挿入して、交尾が始まる。ヘビの交尾時間は長いが、尾の付け根を交叉しているだけで、大きな動きはない。ただ、シマヘビの場合は、雄が雌の体にかみつくと行動が見られる。本格的に餌を採り始めるのは、これら一連の活動の後になる。



シマヘビのコンパクト、雄同士の闘争で、よく交尾と間違えられる

## &lt;協会の声&gt;

## 今につながる思い、未来につなげる思い

六期生 櫻井 昭寛

先日、環境教育関東ミーティングに出かけました。学校や企業の環境教育や自然体験活動に携わっている人たちが集まって3日間、実践活動を学んだり、ワークショップで意見交換したりしました。いろんな自然体験活動をしている人たちの苦労話や本音など生の声を聞いて楽しかったです。交流会ではボランティアで参加している高校生と隣り合わせになりました。将来の進路の話をしたのですが、自分が高校生や大学生だったころを思い出しました。

高校では放課後、よく先輩と一緒に自転車で地質調査に出かけ、夏のカンカン照りの中、観音山の谷沿いに入って地層を追いかけました。あの暑さが今でも思い出されます。大学の部活動では前橋の都市気候観測で、糸を付けた温度計を持って気温と風向風速を計りながら自転車で夜中の町を回りました。定点観測をしながら将来のことなど話したことが思い出されます。

これらの活動や経験が今の自分の根っこの部分を形造っているのを感じます。若いころの自然体験によって、その人の生き方の根底に影響を与えられるとしたら、少しばかりその手伝いができたら、ネイチャーインタープリターとはどんなにか素晴らしいやり甲斐のあることだと思います。

## &lt;協会が実施する年度初めの事業・研修会等&gt;

実施日	内容	会場
平成22年4月4日(日)	尾瀬の自然と尾瀬学校	前橋市総合福祉会館
平成22年4月29日(木)	敷島公園まつり	敷島公園
平成22年5月8日(土)	緑のインプリの森整備	緑のインプリの森
平成22年5月15日(土)	赤城山の生い立ち	赤城山
平成22年6月5日(土)	武尊牧場周辺の植生	武尊牧場周辺
平成22年6月13日(日)	親しみの森、緑のインプリの森整備	親しみの森、インプリの森
平成22年7月10日(土)	緑のインプリの森整備	緑のインプリの森

## &lt;協力関連団体案内&gt;

日本野鳥の会 群馬県支部	E-mail <a href="mailto:office@wbsj-gunma.org">office@wbsj-gunma.org</a> HP <a href="http://www.wbsj-gunma.org">http://www.wbsj-gunma.org</a> Tell 027-325-5211
NPO 法人群馬県自然保護連盟	E-mail <a href="mailto:shizen@dan.wind.ne.jp">shizen@dan.wind.ne.jp</a> Tell 027-324-5706 (土日月祝は不在)
ぐんま自然観察指導員会	E-mail <a href="mailto:bx04621@nifty.com">bx04621@nifty.com</a> Tell 0274-64-5138

## &lt;編集後記&gt;

バンクーバーオリンピックが人々に沢山の感動を与えて終了した。特に日本のフィギュアスケートの結果はそれぞれ銀と銅のメダルでしたが、より高いレベルに挑戦する姿勢が多くの人たちに感動を与えたと思う。

当協会も新しいメンバーを迎え、人と自然の架け橋を目指して新しいことに挑戦して行きたいと思う(T.T)